

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 19 日現在

機関番号：72681

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520076

研究課題名(和文) 葬送における遺品・貨幣・交換の宗教学的的研究 唱衣法の事例から

研究課題名(英文) A study on Robe-selling ritual: relations between personal effects, money and exchange in funeral rites

研究代表者

金子 奈央 (KANEKO, NAO)

公益財団法人中村元東方研究所・その他部局等・研究員

研究者番号：00558538

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、現存最古の『禅苑清規』から元代の『勅修百丈清規』までの中国撰述の諸清規に記載される唱衣法(僧の遺品の競売儀礼)の文献学的分析を行い、通時的観点からその儀式次第・遺品と貨幣の動き等について詳細に確認を取り、唱衣が寺院にとって重要な収入源であることを指摘した。これを基盤として、日本の清規関連文献における唱衣法・中世期の日本曹洞宗の禅師の葬送記録『喪記集』との比較を行った。その結果、唱衣にて実施される提衣仏事が、寺院継承の可視化儀礼として機能する場合があること、遺品の価格設定につきその基準に変化がある事など、日本の禅寺院が置かれた歴史的な文脈にともなう変容が確認できた。

研究成果の概要(英文)：Robe-Selling ritual is one of funeral rites described in Chan/Zen pure rule texts. In the ritual, dead monks' personal belongings are put up for auction and bid by colleague monks. In my research, I examined the ritual written in Chinese Chan Pure-Rule texts from philological point of view.

Based on the philological analysis, I compared the ritual written in Chinese Chan Pure-Rule texts with one in Japanese Zen texts known as Record of Funerals, which is a record of funerals for famous Zen masters affiliated to Japanese Soto sect in medieval times. From the comparison, it was confirmed that there existed some transitions caused by historical contexts in which medieval Soto sect was placed. For example, in Chinese Chan Pure-Rule texts, one Buddha-service was conducted at the start of the ritual to show dead monks' personal belongings to participants, while in the Record of Funerals, it could be functioned to reenact succession of Dharma from the dead masters to disciples.

研究分野：宗教学

キーワード：宗教共同体と経済 宗教儀礼 葬送儀礼 禅宗清規

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者は宗教学的観点からの禅宗清規の研究をテーマとしているが、その一環として、以前から唱衣法の研究に取り組んできた。唱衣法とは、禅宗清規に記載される葬送儀礼を構成する仏事の一つであり、住持や僧侶が死亡した際にその遺品を競売にかけられる儀礼である。

唱衣法は禅宗清規に記載される一連の葬送儀礼を構成する仏事の一つであること、唱衣には葬送費用の捻出・現金収入という性格があることから、禅宗清規・禅宗制度史研究という文脈において、唱衣という仏事の内容を指摘・紹介する研究や、中国禅宗叢林における貨幣経済の浸透といった経済的文脈から事例の一つとして取り上げられることはあるものの、唱衣を主要なテーマとして考察の対象とする研究はほぼ見られない。

研究代表者は、主として元代に成立した『勅修百丈清規』前代に成立した諸清規を集大成した性格を持つに記載される唱衣法を対象とした研究を続け、唱衣法の儀式次第、一連の葬送儀礼における遺品の処理と動き、遺品と交換された貨幣の動き等をテキストに基づいて読解してきた。ここからは、死に直面した宗教的共同体が葬送儀礼を通じて日常的秩序を回復するという文脈において、唱衣が死の表象としての遺品の性格の転換に関わること、唱衣によってもたらされる貨幣が修行の場である叢林の維持に大きく寄与しているなど、貨幣の積極的意義が確認された。

## 2. 研究の目的

上記のような研究を行うにつれ、以下のような内容で研究を進展させる必要があると考えようになった。

まず第一点は、禅宗清規において初めて唱衣法が成文化された現存最古の清規『禅苑清規』(1103成立)と『勅修百丈清規』との間に唱衣法の次第の変化が確認されること、唱衣法が日本では江戸時代まで実施されたと考えられることから、中国・日本の諸清規に記載される唱衣法テキストについて文献学的分析・比較を行うことである。

第二点は、葬送儀礼の仏事である唱衣に関わる三者(叢林権威・僧侶・死者)間において、遺品・貨幣・死にまつわる教義が交換されている点、こうした交換が貨幣を媒介として成立している点から、中国・日本の文化的文脈の中で、送葬における交換の意味、貨幣の持つ積極的役割についてより深く考察することである。

このように文献学的分析・比較を土台とすることにより、中国とは文化的文脈の異なる日本においていかなる変容をもって唱衣法が受容され、機能したのかを将来的に確認する土台とすることも出来ると考えた。

ここから、本研究は、中国・日本の諸禅宗清規に記載される葬送儀礼の一つである唱衣法(住持や僧侶が死亡した際にその遺品を競売にかけられる儀礼)の文献学的分析を基礎として、唱衣における遺品・貨幣・教義という要素、及び、唱衣に関わる三者(叢林権威・僧侶・死者)間におけるこれらの要素の交換について宗教学的観点から考察を加える。これにより、中国・日本における唱衣法の次第とその詳細を明らかにするとともに、死に直面した宗教的共同体において貨幣を媒介とする交換が果たす役割を考察することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 方法の概要

本研究の目的に対応する方法の概要は以下の通りである。

現存最古の清規である『禅苑清規』を始めとして中国成立の諸清規、日本における禅宗清規関連テキストについては、日本曹洞宗系・日本臨済系のテキストの他、中世・近世に成立した諸清規・清規解説書を射程として文献学的に分析・比較を行い、唱衣法の儀式次第・遺品の扱い・貨幣の動きについて確認するとともに、変遷を明らかにする。

さらに文献学的分析を土台として、唱衣に関わる三者(叢林権威・僧侶・死者)間における遺品・貨幣・死にまつわる教義の交換、こうした交換が貨幣を媒介として成立している点について、社会学・文化人類学における贈与交換論・貨幣論を参照しながらその意義を考察する。これにより、死という危機に直面した宗教的共同体において、貨幣という経済的エージェントが宗教的共同体の秩序の回復に果たす積極的役割を明らかにする。

### (2) 文献学的分析の対象とするテキスト

本研究では、以下のような文献を、文献学的分析の対象とした。

#### 【中国成立の文献】

現存最古の『禅苑清規』(北宋徽宗の崇寧二年[1103]に成立)、『無量寿禅師日用小清規』(『入衆日用清規』)、『入衆須知』(嘉定年間[1208~1224頃]の成立)、『叢林校訂清規總要』二卷(咸淳十年[1274]成立)、『禪林備用清規』(至大四年[1311]成立)、『幻住庵清規』(延祐丁巳[1317]成立の序あり)、『禅苑清規』以降の諸清規を集大成した性質を持つ『勅修百丈清規』(元・至元二年[1336]に成立)、『叢林兩序須知』(崇禎己卯年[1639]成立)等。

#### 【日本成立のもの】

日本曹洞宗系列のものとしては、『瑩山清規』、室町期・近世期に成立した清規類(『正法清規』・『梶樹林清規』など)や面山瑞方による清規註解書(『洞上僧堂清規行法鈔』・『洞上僧堂清規考訂別録』)など、『曹洞宗全書』・『続曹洞宗全書』に収録されているテキスト

等

その他、日本臨済宗系の清規や註解書(『大鑑広清規』・『百丈清規抄』)、『黄檗清規』等のテキスト

### (3) 宗教学的考察の方法

本研究の目的を鑑みれば、文献学的作業に加えて、宗教学・社会学・文化人類学における葬送儀礼論・贈与交換論・貨幣論の成果を吸収することが必要となる。

このように理論と文献学的成果とを接合させて、宗教的共同体における遺品の意義・葬送における貨幣の機能について考察を深める方法を探った。

すなわち、死に直面した宗教的共同体が経験する危機と回復という文脈の中で、貨幣を媒介とした交換である唱衣が持つ意義、経済的エージェントとしての貨幣が宗教的共同体に何をもたらすのかについて、文献学的成果を土台として、宗教学・社会学・文化人類学における葬送儀礼論・贈与交換論・貨幣論という観点から分析・考察するという方法である。

## 4. 研究成果

### (1) 平成24年度

従来、『勅修百丈清規』に記載される唱衣法を主たる対象としてきたが、現存最古の清規である『禅苑清規』から『勅修百丈清規』までに成立した禅宗諸清規に対象を広げ、それら諸清規に記載される葬送儀礼及び唱衣法について文献学的観点から確認をとった。

このテキスト読解を基礎として、平成24年9月には日本宗教学会第71回学術大会において、「中国撰述の諸清規における葬送と唱衣法」と題する発表を行った。また、「中国撰述の諸清規における唱衣法 『入衆須知』・『叢林校定清規総要』・『禅林備用清規』・『幻住庵清規』を中心に」と題する論考を『東方』第28号に投稿し、査読を経て掲載された。

この他には、所属先の中村元東方研究所内において所属している「アジア文化宗教歴史研究部会」において、「清規研究と百丈懐海像」と題した発表を行った。この発表では、「禅門規式」というテキストを中心として形成されてきた百丈懐海像と、近代的清規研究における清規観の形成にまつわる問題を取りあげた。これによって宗教的神話が研究者に与える「感染力」や、清規規定という文脈において「百丈神話」が取り得る位置付けについて考察することを目的とした。禅叢林の創設者としての百丈懐海像は、中国禅叢林における唱衣法の法源としても機能すると考えられることから、本研究とも関わる考察であった。

### (2) 平成25年度

現存最古の清規である『禅苑清規』から『勅修百丈清規』までに成立した禅宗諸清規のうち、特に『禅林備用清規』に集中して研究を実施した。『禅林備用清規』は、禅叢林・禅清規の創設者と信じられる百丈懐海のオリジナルテキストを探求する気運を背景として編集された清規だが、研究が手薄な点もあるためである。

こうした研究の成果としては、平成25年8月に日本印度学仏教学会第64回学術大会において、「『禅林備用清規』における法意識と唱衣法」と題する発表を行うとともに、査読を経て同タイトルの論考が『印度学仏教学研究』第62号(1)に掲載された。

また、上記のテキスト読解を基礎として、「中国諸清規における罰則について」(『東京大学宗教学年報』30)をまとめて研究ノートとして発表するとともに、『禅林備用清規』における唱衣法と財の移動を考察し、「禅宗清規における財の移動と唱衣法 『禅林備用清規』を中心に」と題して論考を『東方』第29号に投稿し、査読を経て掲載された。

### (3) 平成26年度

前年度までの、中国において成立した清規類に記載された唱衣法の研究を土台として、平成26年度には、中世期日本にて成立した諸清規における葬送・唱衣法の記述を確認した。日本中世期の禅宗清規においては確かに唱衣法の記述はあるものの、葬送における実施の位置づけの記載や唱衣念誦・廻向の記載に留まるなど、唱衣に関する記載は典型的であることが分かった。一方、中世期の日本曹洞宗の著名な禅師たちの葬送の記録には、遺品の分配や唱衣による利益金など、かなり詳細な唱衣に関する記述があった。

中世期の日本曹洞宗の著名な禅師たちの葬送の記録『喪記集』に記載された葬送と唱衣法につき文献学的に確認を取り、平成26年9月には日本宗教学会第73回学術大会において、「『喪記集』における唱衣法」と題する発表を行った。

### (4) 平成27年度

中国において成立した清規類に記載された唱衣法の研究を土台として、平成27年度には、日本において成立した諸清規における葬送・唱衣法の記述につき、近世期までの文献を文献学的に確認した。しかし前述の通り、日本において成立した諸清規には、唱衣法の記述はあるものの、葬送における実施の位置づけの記載や唱衣念誦・廻向の記載に留まるなど、唱衣に関する記載は典型的である。

そこで、文献学的分析を終えていた『喪記集』における唱衣の記述を対象に、中国諸清

規との比較を行った。具体的には、「抄笥」・「提衣仏事」・「競売品価格の設定基準」といったいくつかの基準を設定して、中国から移入された唱衣法の変容を確認した。その際には、変容の詳細を確認するため、中世・近世期の清規関連文献（『百丈清規抄』・『洞上僧堂清規行法鈔』・『洞上僧堂清規考訂別録』等）も参照した。結果としては、『喪記集』に記載される中世期の曹洞宗の禅僧が所属した寺院が置かれた歴史的・社会的文脈に起因する変容、儀礼の再解釈や新たな意義づけといった変容が確認できた。この成果については、平成27年9月には、科学研究費・基盤研究（A）「多分野複合の視角から見た日本仏教の国際的研究」（研究代表者 大久保良峻・早稲田大学教授）2015年度第1回研究集会において、「日本成立の諸清規・清規関連文献における唱衣法について」と題する発表を行い、論文を準備中である。

この他には、ドイツのエアフルト大学にて開催された、第二回国際宗教学宗教史会議世界大会（IAHR World Congress）にて、“The Robe-Selling Ritual in the Context of Chan Funeral Rites”と題した発表を行った。ここでは特に、唱衣が一次葬と二次葬との間に実施される点に着目して、文化人類学・社会学における葬送儀礼論を援用して、宗教共同体が死という危機から再生してゆく過程に、いかに唱衣が寄与しているかという考察を発表した。具体的には、唱衣によって関わる三者（寺院・僧侶・死者）に収入や葬送の実施といった利益がもたらされるとともに、寺院内に残存している遺品が貨幣と交換されることにより、寺院共同体の死の表象としての遺品から「死の表象」という属性が取り除かれるという形での寄与と考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7件）

金子奈央、「井筒俊彦における禅解釈とその枠組み」(パネル『東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟』)、『宗教研究』第89巻別冊、査読無、2016年3月、pp.101-103  
[http://ci.nii.ac.jp/els/110010026990.pdf?id=ART0010591160&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1466267797&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110010026990.pdf?id=ART0010591160&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1466267797&cp=)

金子奈央、「『喪記集』における唱衣法」、『宗教研究』第88巻別冊、査読無、2015年3月、pp.171-172  
[http://ci.nii.ac.jp/els/110009933331.pdf?id=ART0010477531&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1466267926&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110009933331.pdf?id=ART0010477531&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1466267926&cp=)

o=1466267926&cp=

金子奈央、「禅宗清規における財の移動と唱衣法」『禅林備用清規』を中心に、『東方』第29号、査読有、2014年3月、pp.105-126

金子奈央、「『禅林備用清規』における法意識と唱衣法」、『印度学仏教学研究』第62号（1）査読有、2013年12月、pp.50-54.

[http://ci.nii.ac.jp/els/110009686169.pdf?id=ART0010169209&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1466268092&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110009686169.pdf?id=ART0010169209&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1466268092&cp=)

金子奈央、「中国撰述の諸清規における唱衣法」『入衆須知』・『叢林校定清規総要』・『禅林備用清規』・『幻住庵清規』を中心に、『東方』第28号、査読有、2013年3月、pp.179-195.

金子奈央、「中国撰述の諸清規における葬送と唱衣法」、『宗教研究』第86巻第4輯、査読無、2013年3月、pp.952-953

[http://ci.nii.ac.jp/els/110009669956.pdf?id=ART0010144804&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order\\_no=&ppv\\_type=0&lang\\_sw=&no=1466268130&cp=](http://ci.nii.ac.jp/els/110009669956.pdf?id=ART0010144804&type=pdf&lang=jp&host=cinii&order_no=&ppv_type=0&lang_sw=&no=1466268130&cp=)

金子奈央、「中国諸清規における罰則について」、『東京大学宗教学年報』30、査読無、2012年、pp.167-192.

<http://hdl.handle.net/2261/55333>

<http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/bitstream/2261/55333/1/re1030011.pdf>

〔学会発表〕（計 5件）

金子奈央、「井筒俊彦における禅解釈とその枠組み」(パネル『東洋の宗教思想と井筒俊彦の哲学的思惟』)、『日本宗教学会第74回学術大会、創価大学(東京都八王子市)、2015年9月6日

KANEKO, Nao. “The Robe-Selling Ritual in the Context of Chan Funeral Rites.”, XXI IAHR World Congress 2015 (第二回国際宗教学宗教史会議世界大会), Erfurt University (Erfurt, Germany), 25/8/2015

金子奈央、「『喪記集』における唱衣法」(日本宗教学会第73回学術大会、同志社大学(京都府京都市)、2014年9月13日

金子奈央、「『禅林備用清規』における法意識と唱衣法」、『日本印度学仏教学会第64回学術大会、島根県民会館(島根県松江市)、2013年8月31日

金子奈央、「中国撰述の諸清規における葬送と唱衣法」、『日本宗教学会第71回学術大会、皇學館大学(三重県伊勢市)、2012年9月8日

〔図書〕（計 0件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0件）

名称：

発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

金子 奈央 (KANEKO, Nao)

公益財団法人中村元東方研究所・専任研究員

研究者番号：00558538

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：